“三重県のヘソ”「多気町」で進むビッグプロジェクト

前回の三重県コラム（vol.57）では、新しい「道路」（新名神高速道路）の開通により県内の観光消費が大きく伸びる予想をレポートした。今回、紹介する三重県多気郡多気町でも「道路」がキーとなる。

多気町では今春、民間レジャー複合施設「VISON（ヴィソン）」が開業する。東京ディズニーランド２個分の敷地に「癒・食・知」がテーマのホテルや温浴施設などが入り、年間６００万人もの集客を見込む。コロナ禍の影響で開業が半年ほど遅れているが期待は益々高まっている。東海エリアの中心である名古屋から見て、三重県の主たる観光エリアである「伊勢・鳥羽・志摩エリア」また、世界遺産の熊野古道を有する「熊野エリア」への高速道路アクセスは、多気町にある勢和多気JCT（伊勢自動車道／紀勢自働車道）で分岐し両方面に向かう。三重県のほぼ中央に位置し“三重県のヘソ”ともいえる多気町のロケーションは県内主要観光地へのアクセスが全方位に容易であることが魅力である。

インバウンドや長期滞在型の観光スタイルにおいては、滞在する地域の魅力に加えて、複数の近郊観光スポットへのアクセス優位性が問われるが、その地の利、高速道路との接続優位性が多気町にあることにあらためて気づかされた。なお、「VISON」と伊勢自動車道はスマートICで直接結ばれる予定で、民間施設との接続認可は日本初である。

「地域農業力」をうたう多気町役場、地元団体なども、「VISON」開業に合わせ、農業観光施設の整備や農村交流事業など、農業や食にフォーカスした観光コンテンツの開発を進めている。

現在、多気町の周辺自治体、企業などが「スーパーシティ構想区域（国家戦略特区）」選定を目指して協議会を立ち上げている。これに選定されれば「多気町」は全国区の注目エリアとなるだろう。

中日新聞社　広告局広告三部　三重アドセンター所長　中村広樹

VISONは２０２１年春にオープン予定